ことしの出題傾向

国語　難易度高い古典問題

ある。昨年度同様、比較的易しい問題が多かった。

大問6は物語文の読解問題で、昨年度より全体での難易度は下がっている。

大問7は古典の問題で、読み取りが中心。昨年度より難易度は高い。

大問8はアンケート調査の結果の読み取りで、生徒と保護者との差の大きいものを見つけるのがポイントになる。

全体として見ると、今年度の前期試験は言葉の意味や使い方を尋ねる出題が多かった。

平均点は昨年度の前期試験と同じか、若干上がるだろう。

（金坂　智行）

大問の構成は昨年度の前期試験と同じ8題の構成である。全体では聴くこと・読むこと・書くことがバランスよく出題されている。

大問1は聞き取りの検査で、例年通り、出題が挟まる形になっている。小問の最後が記述式になっているため昨年度に比べると難易度が上がっている。

大問2と3は漢字の読みと書きの問題で、難易度の高い問題が多数出題された。

大問4は国語の知識を問う問題である。半分が言葉の意味や使い方の問題であった。

大問5は説明文の読解問題で

数学　全体的に易しめ出題

問題の構成・順序・大問の点は昨年と同様であった。

出題領域は「数と式」50点、「図形」25点、「関数」15点、「資料の活用」10点と、これも昨年同様で、中一から中三までの学習内容からバランスよく出題されている。

大問1は計算。大問2は小問集合。大問2(5)の作図は昨年よりも易しめだが「2本の接線の長さが等しい」ことに気づけたかがポイントだ。

大問3は関数。全体的にかなり易しく基本的な出題だ。

大問4は平面図形。近年証明問題は易しくなってきている。

(2)も、AからDCに垂線をひくことに気づきさえすれば、三平方の定理を使って、容易に答えを求められただろう。

大問5は規則性の問題。辺の長さがnのとき、正三角形のタイルの数が$6\times(2n-1)$ずつ増えることに気づけば容易。

県教委も平均点を昨年度より10点ほどあげる方針で、実際の平均点もかなりアップしそうだ。

全体的にかなり易しめの出題となっており、受験生の間で差がつきにくいものとなっているという印象だ。

（金坂　嘉一）

英語　「聞くこと」配点アップ

大問の構成は昨年度の前期試験と同じで9題である。

大問1から4はリスニングテスト。大問4が、ヒントとなる英文を読んで英単語を書く問題のため、戸惑った受験生もいたと思われるが、全体的な内容は平易なものが多かった。

大問5は文法問題。語形変化が2題と並べ替えが3題出題され、どちらも難易度は高め。

大問6は英作文。天気や未来表現など基本的な語句や文法が身に付いているかが問われた。

大問7は短文の読解問題が3題。(2)①の英作文と(3)以外は平易な内容。

大問8は長文の読解問題。グラフの読み取りに加え、英文自体も難易度の高い内容となっていた。

大問9は会話文。問答形式なので、前後の文から合う選択肢を推測すれば良い。

リスニング全体の配点が前年度の21点から33点に変更され「聞くこと」が重視されている。

全体としては難易度が高く、平均点は昨年度程度、もしくは下がるのではないだろうか。

（横内　美保）

理科　基本の知識問題中心

大問5は蒸散についての基本的な問題。

大問6はイオンと中和についての知識問題。

大問7は天体の動きについて。

大問8は進化について、大問9は電流と発熱。ジュールの法則を使った計算問題が出題された。(4)は並列回路、直列回路についての基本的知識と電力の公式を知っていれば平易だ。

全体として、新課程になってしばしば出題されていた難度の高い問題は影をひそめ、複雑な計算問題もほとんどない。基本量を求める計算がやや難しい。

大問4は力と圧力。(4)の力の合成がやや面倒だ。

（大野　愛依）

昨年の前期と同じく9題構成であった。大問1は小問集合、大問2以降は、物理・化学・生物・地学が二題ずつで、履修学年もバランスよく出題されている。

大問1は小問集合で平易。知識問題のみ。

大問2は地震について。(3)①のP波の速さの計算も平易だ。

社会　公民の記述は難解か

数値を利用して解答を求める総合的な力が求められている。

1の総合問題は基本的事項であったが、2の日本地理では整序問題が出題された。また地形図の読み取りでは二地点間の標高差が出題され、難しかったといえる。3の世界地理は基本事項中心であった。

4・5の歴史分野では整序問題は三問で、地理・歴史・公民全ての分野で出題された。なかでも公民分野の記述式問題は例年通り難度が高く、株式会社について正確な理解が求められ、受験生はとまどったものと思われる。解答までに比較的長い時間を費やしてしまうであろう資料の読み取り問題は、昨年同様三題出題された。資料を読み、全体の構成は昨年と同じで大問8題であった。配点では7の公民が一点減点、2の日本地理で1点増加と大きな変更点はなかった。受検生が苦手とする歴史の整序問題は一問、15字から25字以内で解答する記述式問題は三問で、地理・歴史・公民全ての分野で出題された。なかでも公民分野の記述式問題は例年通り難度が高く、株式会社について正確な理解が求められ、受験生はとまどったものと思われる。解答までに比較的長い時間を費やしてしまうであろう資料の読み取り問題は、昨年同様三題出題された。資料を読み、

6の経済分野では語句指定があったとはいえ難度の高い記述式問題が出題された。7の政治分野、8の国際分野の空欄補充問題は易しかった。

全体としては易しい印象を受ける。平均点は昨年と同程度であろう。

（屋代　勇二）